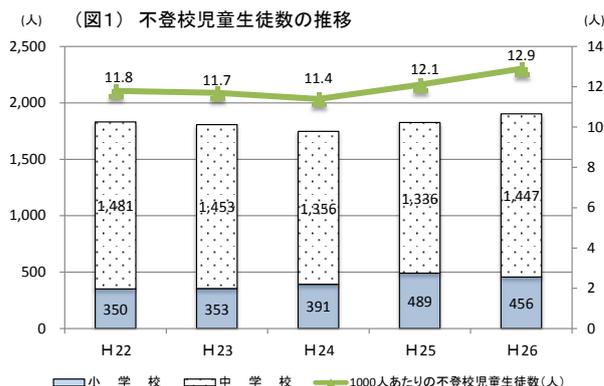


## 平成26年度 公立小中学校における不登校の状況等

### 1 概要（図1・図2参照）

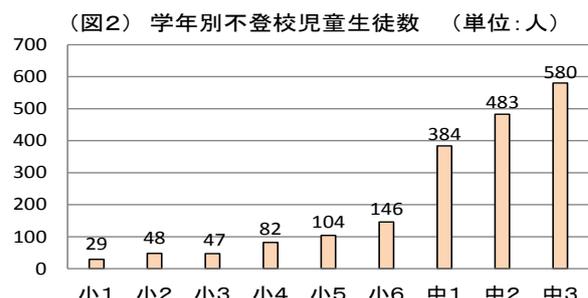
平成26年度の公立小中学校における不登校児童生徒数は1,903人で、平成25年度と比較して78人増加し、小学校は456人（前年度比33人減）、中学校は1,447人（同111人増）となっている。学年別の不登校児童生徒数では、中学3年生が580人で最も多くなっている。

公立小中学校における1,000人あたりの不登校児童生徒数は12.9人で、平成25年度と比較すると0.8ポイント増加している。



### 2 不登校となったきっかけと考えられる状況（複数回答可）（表1参照）

最も多いのは、小学校では「不安など情緒的混乱」(168人)、中学校では「無気力」(487人)となっている。次いで、小学校では、「無気力」(127人)「親子関係をめぐる問題」(123人)、中学校では「不安など情緒的混乱」(435人)、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」(301人)となっている。



### 3 不登校児童生徒への指導結果

「指導の結果、登校する又は登校できるようになった児童生徒」は、小学校では113人(24.8%)、中学校では358人(24.7%)となっている。

また、「継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒」は、小学校では108人(23.7%)、中学校では339人(23.4%)となっている。

(表1) 不登校となったきっかけと考えられる状況(複数回答可)

区分	小学校		中学校		
	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	
学校に係る状況	いじめ	4	0.5%	21	0.8%
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	79	9.8%	301	11.6%
	教職員との関係をめぐる問題	8	1.0%	44	1.7%
	学業の不振	44	5.5%	195	7.5%
	進路にかかる不安	2	0.2%	59	2.3%
	クラブ活動、部活動等への不適応	0	0.0%	57	2.2%
	学校のきまり等をめぐる問題	2	0.2%	59	2.3%
	入学、転編入学、進級時の不適応	12	1.5%	52	2.0%
家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	47	5.9%	135	5.2%
	親子関係をめぐる問題	123	15.4%	171	6.6%
	家庭内の不和	44	5.5%	86	3.3%
本人に係る状況	病気による欠席	47	5.9%	143	5.5%
	あそび・非行	4	0.5%	186	7.1%
	無気力	127	15.9%	487	18.7%
	不安など情緒的混乱	168	21.0%	435	16.7%
	意図的な拒否	21	2.6%	81	3.1%
	上記「病気による欠席」から「意図的な拒否」までのいずれにも該当しない、本人に関わる問題	16	2.0%	24	0.9%
	その他	36	4.5%	32	1.2%
不明	17	2.1%	35	1.3%	
計	801	100.0%	2603	100.0%	

### 4 不登校児童生徒に対して特に効果のあった学校の措置（複数回答可）（表2参照）

特に効果のあった学校の措置としては、小中学校とも、「家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った」(小学校49校、中学校79校)が最も多く、次いで、小学校では「保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った」(43校)、中学校では「登校を促すため、電話をかけたかたり迎えに行くなどした」(67校)の順となっている。

### 5 相談・指導を受けた専門機関等（複数回答可）（表3参照）

学校外においては、小中学校とも「教育支援センター(適応指導教室)」(小学校92人、中学校275人)が最も多く、次いで小学校では「教育委員会及び教育センター等教育委員会所管の機関」(65人)、中学校では「病院、診療所」(146人)となっている。

学校内においては、小中学校ともに「スクールカウンセラー、相談員等による専門的な相談を受けた」(小学校163人、中学校403人)が最も多く、次いで「養護教諭による専門的な指導を受けた」(小学校97人、中学校244人)となっている。

学校内、学校外で担任以外の専門的な相談・指導を受けている児童生徒数は、小学校386人、中学校1041人となっている。